

小学校 外国語活動 部会

部会長 川崎町立池尻小学校 校長 森 隆子

研究員 香春町立勾金小学校 教諭 山口 大介

実践者 糸田町立糸田小学校 教諭 岸野未来

1 研究主題

外国語を使って、積極的にコミュニケーションを行う外国語活動の在り方
～外国語で話すことの楽しさを体験できる言語活動の充実と評価の工夫を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

近年、社会や経済のグローバル化が急速に発展し、人的・物的・情報の流動性が高まり、日本人の英語使用の頻度が高まった。また、異なる文化の共存や持続可能な発展に向けての国際協力が求められるようにもなった。その結果、産業界をはじめ、社会全体において日本人の英語運用能力の向上を求める声が高まっている。そのため、学校教育においては、外国語教育を充実させ人材を育成することが課題の一つとなっている。

しかし、多くの子どもが、初めて母国語以外の言語に触れるという実態があり、外国語活動が子どもたちの興味・関心を失わせるような内容であったり、負担感を持たせるような活動になることは、英語嫌いをつくることにもなりかねない。そこで、小学校外国語活動においては、子どもの日常生活に身近な英語を扱うことを重点に置き、音声を中心として身振り手振りや表情などによって体験的なコミュニケーションを行うことを重視する。そのため、コミュニケーションを楽しみながら、子どもたちが外国語に慣れ親しんでいくという活動内容の工夫が求められている。

(2) 外国語活動のねらいから

学習指導要領に示されている外国語活動の目標は以下の通りである。

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

この目標には3本の柱があり、以下のようにまとめることができる。

外国語を通じて、

- 言語や文化について体験的に理解を深めること
 - 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること
 - 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること
- により、コミュニケーション能力の素地を養う。

また、学習指導要領の「第2 内容」では、「外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図る」ことを目指した指導において、[コミュニケーション面の指導事項]として、以下の3点を示している。

- 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
- 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。

○ 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。

つまり、小学校外国語活動においては、知識やスキルの定着を目ざす活動ではなく、コミュニケーションそのものの意義にふれる体験的な活動を行うことが重視されることが分かる。また、コミュニケーションの楽しさを味わうことなしに、コミュニケーションへの積極的な態度を育成することは難しいとも述べられている。以上のことから、本研究主題を設定した。

3 主題の意味

(1) 「積極的にコミュニケーションを行う外国語活動」とは

学習指導要領「第3 指導計画の作成と内容の取り扱い」の内容の取り扱い2(2)では、「オ 外国語でのコミュニケーションを体験させるに当たり、主として次に示すようなコミュニケーションの場面やコミュニケーションの働きを取り上げるようにすること」とし、[コミュニケーションの場面の例]として、

- (ア) 特有の表現が使われる場面、[あいさつ・自己紹介・買い物・食事・道案内など]
- (イ) 児童の身近な暮らしにかかわる場面 [家庭での生活・学校での学習や活動・地域の行事・子どもの遊びなど]

が挙げられている。

また、[コミュニケーションの働きの例]として、

- (ア) 相手との関係を円滑にする
- (イ) 気持ちを伝える
- (ウ) 事実を伝える
- (エ) 考えや意図を伝える
- (オ) 相手の行動を促す

と示されている。つまり、「積極的にコミュニケーションを行う外国語活動」とは、授業において設定された様々な場面において、目的に応じたコミュニケーションの働きがより効果的に実現できるよう、児童が積極的に活動する学習であると考えられる。

(2) 「外国語で話すことの楽しさを体験できる言語活動の充実」とは

『言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】』（平成22年12月 文部科学省）では、言語活動の充実を図る際に、各教科等の特質を踏まえることが大切であるとされている。外国語活動の特質とは、「外国語を通じて」言語活動を行うことにある。そして、その外国語での言語活動において、互いに分かり合えるという体験が楽しいコミュニケーションにつながると考えられる。

授業において、子どもたちは自分にとって不慣れな外国語を用いるため、相手の表情やジェスチャー、言葉のイントネーション等から、相手の言っていることを一生懸命理解しようとする。また、自分を理解してもらおうと努力する。実際には、日本語で行うには幼稚だと思われる表現を用いることが多いが、相手の言っていることが理解できたり、自分が理解してもらえたときの喜びは大きい。例えば、「何の動物が好き。」「犬が好き。」といったやりとりも、英語で行うことで、子どもにとっては「自分のことを伝えたり、友だちのことを知ったりすることができた。」という楽しいコミュニケーションになる。自己

理解や他者理解にもつながると考えられる。

そのことを踏まえ、「外国語で話すことの楽しさを体験できる言語活動の充実」とは児童が外国語を話したり聞いたりする必然性があり、互いに伝え合いたくなるような活動を学習展開の中に設定することと考える。

具体的には、以下の通りである。

新しい情報を友だちや教師とやりとりし合うような活動や、外国語を使いながら体験的な活動を行うなど、相互理解や自分の考え・意図を伝える楽しさを持つコミュニケーション活動を単元及び一単位時間の学習展開の中に位置づける。

*新しい情報を友だちや教師とやりとりし合うような活動や、外国語を使いながらの体験的な活動の例

・インタビュー・クイズ・Show and Tell・外国人との調理実習など

(3) 評価の工夫とは

外国語活動の具体的な評価の方法としては、単元及び一単位時間での教師の見取りに加え、子ども自身が授業を振り返って評価する自己評価、友だちの取組を互いに評価する相互評価、活動で使用したワークシートやポートフォリオを利用するなど、多様な評価方法が考えられる。しかし、どのような評価方法であっても目標と表裏一体になっていなくてはならない。すなわち、目標とする能力を育てるためには、授業において評価の対象となるような活動が必ず含まれていることが必要となる。そのため、意欲や態度の育成に重点を置く外国語活動においては、評価がその時間の活動についてだけでなく、次時や次単元の活動への意欲につながるものが望ましい。つまり、「評価の工夫」とは、子どもたちの外国語活動への意欲や態度を高められるよう、教師が意図を持って評価することであると考える。

4 研究の目標

外国語を使って、積極的にコミュニケーションを行う児童を育成するために、外国語活動における言語活動の充実を図った学習展開と評価の在り方について究明する。

5 研究仮説

外国語活動の学習指導において、言語活動を充実させ、評価を工夫すれば、児童は外国語を使って積極的にコミュニケーションを行うことができるであろう。

[仮説実証のための着眼点]

① 新しい情報を友だちや教師とやりとりし合うような活動や、外国語を使いながら体験的な活動を行うなど、相互理解や自分の考え・意図を伝える楽しさを持つコミュニケーション活動を単元及び一単位時間の学習展開の中に位置づける。

* 新しい情報を友だちや教師とやりとりし合うような活動や、外国語を使いながらの体験的な活動の例

・インタビュー・クイズ・Show and Tell・外国人との調理実習など

② 子どもたちの外国語活動への意欲や態度を高められるよう、教師が意図を持って評価するため、行動観察用のチェックリスト（指導者用）や振り返りカード（児童用）、ワークシート等を作成し、活用する。

6 授業の計画

(1) 単元 「友達に行きたい国を尋ねよう」 (Hi, friends2)

(2) 単元の目標及び指導計画

単元	友達に行きたい国を尋ねよう	総時数	4時間	時期	10月
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語を使って、積極的に自分の行きたい国を教えたり友達の行きたい国について尋ねたりする。 (関心・意欲・態度) ○ 自分の思いがはっきり伝わるように声の大きさや話すスピードを工夫して、おすすめの国について発表することができる。 (思考・判断・表現) ○ 世界には様々な人たちがいて、様々な生活をしていることに気付くことができる。 (知識・理解) 				
時	主な活動	評価			
		コ	慣	気	評価規準 (方法)
1	国名の言い方を知る。 ○ What country?クイズ 【P1】 「() に国名を書こう。」 ○ ミッシングクイズ ○ 3ヒントクイズ			○	日本語との違いに気付いている。(言い方・アクセント)
2	行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に触れる。 【L1】 「どの国の世界遺産か考えよう。」 ○ 3ヒントクイズ 【C】 ”Let’s go to Italy.” 【L2】 「わかったことを書こう。」		○		国名を聞いたり言ったりしている。 (行動観察・振り返りカード) 行きたい国について聞いている。 (行動観察・点検・振り返りカード)
3	自分の思いがはっきり伝わるようにおすすめの国について発表したり、積極的に友達の発表を聞いたりしようとする。 【C】 ”Let’s go to Italy.” ○ Who do you want to go 国名クイズ		○	○	自分の思いがはっきり伝わるように工夫しておすすめの国について発表したり、友達の発表を聞いたりしている。 (行動観察・振り返りカード)
4	行きたい国について友達に尋ね				世界には様々な人たちがいて、

本 時	たり言ったりする活動を行う。 ○3ヒントクイズ ○外国旅行体験談（2名） ○インタビュー活動ゲーム	○	○	様々な生活をしていることに気付いている。 （行動観察・振り返りカード） 行きたい国について尋ねたり言ったりしている。 （行動観察・振り返りカード）
--------	--	---	---	--

7 指導の実際

児童の活動	指導者の活動		指導上の留意点 ◎評価規準〈評価方法〉 【評価の観点】	配 時
	HRT	JTE		
1 はじめの挨拶をする。 Hello. How are you? I' m fine. It' s sunny.	・個別に数名の児童と挨拶をする。	・全体に挨拶をする。	・これから授業が始まることを意識させるように、指導者は大きな声で挨拶をする。	5
2 本時のめあてをたてる。	友達に行きたい国を尋ねたり、言ったりしよう。			2
○ Let' s chant ♪ Let' s go to Italy.	・児童と一緒に Chant を言う。		・児童の様子に合わせて Chant のスピードを変えて挑戦させる。	3
3 教師の外国旅行体験談を聞く。	・スクリーンに映し、「What?」「Who?」と尋ねる。	・P.P を見ながら英語でスピーチをする。	・日本と外国の生活や文化などを比べ、違いを見つけたり、興味をもたせたりする。	10
○ Activity1 インタビューゲーム ・友達に Where do you want to go ?と尋ねる。 ・友達に尋ねられたら、I want to go to ～, eat ～, see ～と答える。 ・男女1名と教師の中からラッキーパーソンを決め、	・JTE とデモを行いながら、インタビューゲームの説明をする。 ・児童の態度面で良かったところを	・HRT とデモを行いながら、インタビューゲームの説明をする。	・もう一度言ってほしい場合は、One more. と言ってよいことを伝えておく。 ◎評価規準 ・積極的に友達に行き	20

その人にインタビューをしたら2ポイント。	具体的にあげてほめる。		たい国を尋ねたり教えたりすることができたか。	
4 本時の振り返りをする。 終わりの挨拶をする。 Good-bye. See you.	・終わりの挨拶をする。	・全員にあいさつをする。	【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 (インタビューシート)	5

8 研究のまとめ

本研究のまとめは本時授業の結果と考察をもって行うこととする。

導入の段階で、教師2名の外国旅行体験談を話し、日本との生活や文化、食べ物の違いなどに気付かせたり、外国に興味をもたせたりする活動を行った。このことにより、子どもたちは、「外国に行ってみたい」という思いをもち、単に英語に慣れ親しむだけでなく、外国に対する興味を喚起し、良いイメージをふくらませることができた。

展開では、「Where do you want to go?」インタビュー活動を行った。この活動により、本時で必要な表現について慣れ親しむことができた。また、より意欲的な活動ができるように、ラッキーパーソンを何人か決め、ポイント制で競わせた。積極的にコミュニケーションを図るための工夫として、ポイント制を取り入れたことにより、参観中の教師にも積極的に話しかける姿が見られた。さらに、終末での子どもの振り返りでは、「初めて多くの友だちにインタビューができた。」「知らない先生にも話しかけることができた。」等の声が聞かれた。これは、本時の目標である積極的に尋ねることが達成できたといえる。また、英語に対して自信がない児童や消極的な児童が多いクラスの実態から、このインタビュー活動は大変意義深かった。

その一方で、多くの友達にインタビューをすれば、積極的にコミュニケーションを行ったといえるのかが課題である。ポイントが多ければ、児童は満足をする。しかし、本来の積極的なコミュニケーションの姿とは、言葉が上手く伝わらない場合は、ジェスチャーを取り入れることや、友達にインタビューをするだけでなく、さらに質問をすることではないかと考える。

9 成果と今後の課題

(1) 成果

- ①単元で必要な表現について十分に慣れ親しませることで、コミュニケーションに自信をもってインタビューさせることができた。
- ②チャンツやゲーム行ったり、外国の食べ物や建物の写真などを紹介したりしたことで、楽しみながら表現や語彙に慣れ親しませることができた。

(2) 課題

- ①必然性のあるコミュニケーション活動の設定。今回は、日本語が話せないということにしてあるJTEに、英語を使って「行きたい国はどこ。」と話しかけることを活動の場と設定した。

②評価の仕方。インタビュー活動を行った場合の評価は、どのようにするべきなのか。
次時の活動につなげるための評価は、振り返りシートや行動観察のチェックリスト
を作成するだけで良いのか、単元や各時間の目標に照らして評価規準を設定する必
要がある。

○ 参考文献

- ・「小学校学習指導要領」 文部科学省
- ・「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」 文部科学省 東洋館出版社
- ・「小学校英語活動実践の手引き」 文部科学省 開隆堂出版
- ・「小学校外国語活動の進め方」 成美堂
- ・「日本の小学校英語を考える」 三省堂